

令和4年度 調布市立緑ヶ丘小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	
○礼儀正しくきまりを守る子 ○よく考え進んでやりぬく子 ○明るい心とじょうぶな体の子	
目指す学校像(ビジョン) 例)学校像,教員像,児童・生徒像	
「楽しく力のつく学校」をめざして ○児童一人一人が生き生きと活動する学校 ○安全・安心な学校 ○地域や保護者に信頼される学校	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	<p>人権尊重の精神を基調とし、これまでの教育活動の蓄積を生かし、児童が未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成するため、上記の目標を定め、その育成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 一人一人の教育的ニーズに応じた多様な学びの場、環境の充実を図る。 * 他者との差異を理解し、互いを尊重し合える仲間づくりに取り組む。 * 知・徳・体にわたる「生きる力」を育むため、「見方・考え方を働かせながら資質・能力を身につける」という学習の意義を共有しながら、「主体的・対話的で深い学び」等、授業の創意工夫や改善を行う。 * 学習の基盤となる言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力や、現代的な諸課題に対応して求められる力の育成に向け、教科等横断的な学習の充実を図る。

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	読むことの領域においては、叙述から根拠を見付けられるようにする。書くことの領域では、自分の思いや考えをすすんで表す児童の育成を目指す。相手意識をもたせ書く必然性を感じさせ、学習過程を意識しながら書くことができるようにする。新出漢字や語彙の定着を含め、言語活動等ではカリキュラムマネジメントを行うことで国語の学習だけでなく各教科領域を通して観察記録、社会科のインタビュー、説明文、意見文等を書く機会を捉え目的に応じて話したり聞いたり表現したりする活動を設け意識を高める。	<p>発問やワークシートを工夫することで、叙述から根拠を見付けて考えられるようにする。</p> <p>書くことに苦手意識があり自分の思いを表すことができない児童がすすんで表現し、表現を工夫することができるようにする。</p> <p>漢字や語彙のテストを週に一度程度行い、新出漢字、前学年までの漢字などの習得を図る。</p> <p>音読や読書の宿題を継続して行うことで、読み物に慣れ関心を高められるようにする。</p>
社会	体験的な活動を取り入れたり、視聴覚教材や各種資料を用いたりすることで、社会的事象について広く関心をもてるようにするとともに、問題解決型の学習を通して主体性や思考力・表現力を伸ばす。	自分達で設定した学習問題について、地域調査やインタビューなども取り入れながら追究したり、周囲と交流しながら解決したりする活動を取り入れる。また、学習問題を追究するための見通しをもたせるとともに、自分で調べたことや考えたことをグループで話し合ったり、発表したりする活動を意図的に取り入れる。
算数	問題解決学習を通して、主体性や思考力・表現力を伸ばす。問題に対し、既習事項を基に解決できる力を育てる。算数的活動を行い、算数に親しんで取り組んだり、生活に算数を役立てたりする力を高める。	課題解決、自力解決、練り上げ、まとめ、振り返りの指導の流れを一貫して行い、自分の考えをもたせる場面を作る。多くの児童が自分の考えを表現できるような工夫をし、数学的な思考力・表現力を養う。学習した内容を日常生活に当てはめて考えさせるなど、活用の場面を設ける工夫をする。
理科	児童が主体的に学習に取り組むことができるように、児童に学習問題を自分事として捉えさせる工夫をする。観察や実験では、ねらいをはっきり押さえて内容をよく理解させる。また知識として身に付ける必要があるものは、確実に覚えられるようにする。観察や実験の際には、既習の知識や経験と結び付けて予想を立てるようにする。また単元の終末には、自分の考えをもつとともに、学んだ知識と実生活をつなげて考える場面を作る。	<p>生活体験だけでは解決できない疑問や児童が認識のずれを自覚できるような自然事象を提示し、適切な発問とあわせ、学習問題を自分事として見いだすことができる学習活動をどの単元においても実施する。</p> <p>問題と結論、仮説と考察が常に対となった問題解決活動を意識した学習を常に実践する。</p> <p>問題解決の過程を分かりやすく整理させ、学習内容を定着させるとともに、考察や結論が一目で分かるようなノート指導を行う。</p> <p>自然と向き合う体験を通して実験や観察の技能を定着させるために、教科書に示されている観察・実験を必ず実施する。</p>
生活	自ら得た気付きや発想を、さらに深めようとする思考力を育てる。生活科で学んだことや、得た知識を使って、自分なりに生活に生かそうとしたり、新しい発想で楽しもうとしたりする態度を育てる。自分の気付きや発想を互いに伝え合うことのおもしろさを感じる力を身に付ける。場を意図的に	<p>栽培活動では、育てるだけでなく、よりよい栽培方法や、花や種の活用方法を考えさせ、これから先の人生に生かせるような活動になるよう心掛ける。また、地域の探検活動（公園や公共施設の訪問）など、地域に密着した豊かな体験学習を通して身近な人や社会・自然に対する関心を高める。</p> <p>活動から得た気付きを表現する際には、絵や言葉、動作など多様な方法で表現できるようにする。場を意図的に設け、伝え合う楽しさを実</p>

	<p>設け、伝え合う楽しさを実感できるようにする。</p>	<p>感できるようにする。 個々の気づきを全体で共有する時間を充実させ多様な思いに触れさせる。また、少人数で話し合う場を意図的に設け、伝え合う楽しさを実感できるようにする。</p>
音楽	<p>児童が主体的に取り組めるように、基礎の定着を図る。 音や音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、表現を共有したりする場を設定し、自己のイメージとの関連付けを図る。 一人ひとりの気持ちに共感できるような教材設定をする。</p>	<p>毎回の授業で楽典的な要素を取り入れ、各学年読譜能力向上を図る。 音楽を聴きとり、感じ取り、表現を深める過程を学習計画に取り入れる。 各行事や地域の文化に触れ、生活や文化などと関連付けながら、音や音楽との関わりを自ら築き、生活を豊かにしていく機会となるようにする。</p>
図画工作	<p>一人一人が生き生きと楽しみながら主体的に造形活動に取り組む態度を育成する。 生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成する。 用具を大切に扱い、安全に取り組む態度を育成する。</p>	<p>授業時間の2/3以上を制作時間として確保し、様々な材料や用具を試したり、つくりかえたりする経験を積めるようにする。また、板書や掲示、ICT機器を活用して学習の見通しをもちやすくして、児童がつくるときと同じアングルで用具の扱い方を確認できるようにする。 低・中学年では、身近な食べ物や生き物・遊びの経験など、実際に材料に触れた時の感触を大事にする。高学年では、既習した用具や材料を総合的に扱う題材を取り入れて、系統的な指導を行う。 児童が安全に活動できる環境を整え、準備から片付けまでを児童一人一人が正しい手順や方法で確実にこなせるようにルールを明確にする。</p>
家庭	<p>家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。 家庭生活を大切にすることを育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。</p>	<p>製作や調理実習の課題は児童の実態に合わせて適切なものを選択し、時間を十分に確保するとともに、児童の意欲や技能に合わせた個別指導を充実させる。 5年生では2年間の学習の見通しをもたせるためのガイダンスを行い、6年生では既習内容と関連付けた単元の導入を行う。日常生活の衣・食・住や家族との関わり、消費生活や環境問題に目を向けさせ、そこから課題を見付け、学習への関心を高め、主体的に取り組んでいけるような授業を展開する。 家庭科ノート（プリント）を活用し、作品製作や調理実習で学んだことを表現する言語活動を計画的に実施する。 各単元の中では、学んだことを実際に使う場面を必ず設定する。</p>
体育	<p>単元の特質を考慮しながら、能力別に練習できるような場を設けたり、試技した映像を自分で見られるような環境を作ったりする。また、ペアで話し合ったり、グループで話し合ったりする時間を設ける。 児童が楽しみながら運動に親しめるように単元ごとに環境整備を行う。 休み時間に「ミドリンタイム」を設定し、全校児童が外で過ごせるような時間を設ける。</p>	<p>運動領域によって苦手意識が高かったり、技能の差が大きかったりする実態を踏まえ、場の設定等を工夫する。 児童が意欲をもって取り組んでいけるように、できるようになったときの喜びや分かったときの喜びを味わわせる取り組みを学校全体で実施する。 運動能力や運動技能の向上だけが体育の目的ではないことを再確認し、主体的な課題発見を促す工夫、発見した課題を解決するための思考・判断を促す場面をどの単元でも設定し、問題解決・探究しようとする資質・能力を育成していく。</p>
外国語	<p>外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育てる。</p>	<p>AETと連携したりデジタル教材を活用したりしながら、音声で慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだりできるようにする。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、身近で簡単な事柄について、ペアやグループ、AETに外国語で聞いたり話したりする場面を効果的に用意し、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。</p>
道徳科	<p>道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。</p>	<p>教材の登場人物の心情と自分との関わりについて、多面的・多角的に考える活動を設定する。 問題場面について、児童自身の考えの根拠を問う発問や、実際の自分に当てはめて考えることを促す発問、問題場面における道徳的諸価値の意味を考えられるような発問を設定する。 問題場面を実際に体験してみることや、それに対してどのような行動をとるかという問題解決のための活動的な学習を設定する。</p>
外国語活動	<p>外国語による聞くこと、読むことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育てる。</p>	<p>外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現にAETと連携したりデジタル教材を活用したりしながら、慣れ親しむようにする。 身近で簡単な事柄について、ペアやグループ、AETに外国語で聞いたり話したりする場面を効果的に用意し、自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。</p>

